

## 地域再生計画

### 1. 地域再生計画の名称

萩のモノとワザを活用すれば、雇用が生まれ、地域が変わる。  
～萩の木になるモノづくり「食」実践プロジェクト～

### 2. 地域再生計画の作成主体の名称

萩市

### 3. 地域再生計画の区域

萩市の全域

### 4. 地域再生計画の目標

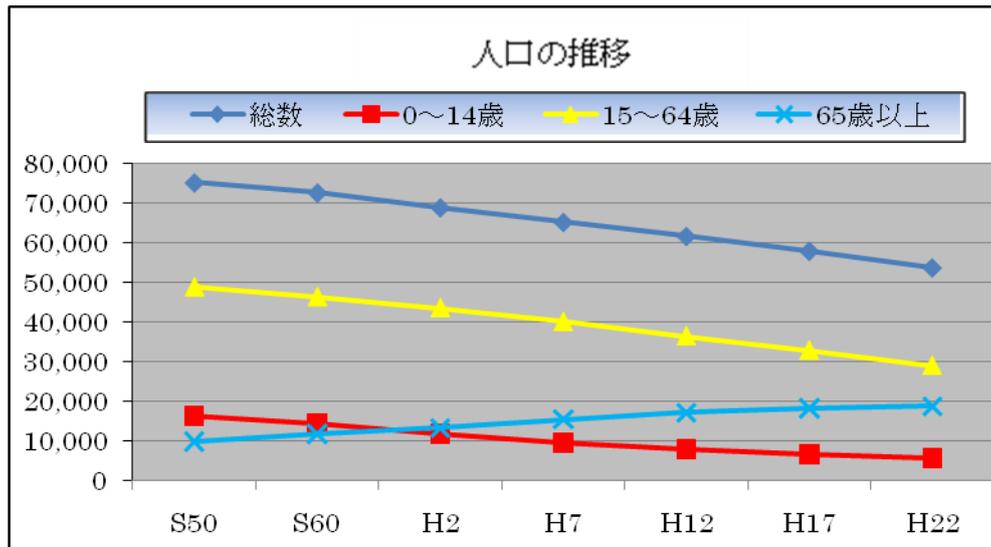
萩市（以下「本市」という。）は、本州最西端の山口県の北部に位置し、幕末から明治にかけて、近代日本の礎を築いた多くの人材を輩出した明治維新胎動の地である萩市、阿武川の豊かな山水に恵まれた川上村、島根県に隣接し、北長門海岸国定公園の一部を含むリアス式海岸を有する田万川町、緑に囲まれた美しい農山村景観を有するむつみ村、名勝及び天然記念物「須佐湾」や「ホルンフェルス」など多くの景勝地に恵まれた須佐町、山口県の中心に位置し宿場町として発展し、農業集落を有する旭村及び山間地の起伏に飛んだ地形を有する福栄村の1市2町4村が平成17年3月6日に合併し誕生した。現在は、萩・川上・田万川・むつみ・須佐・旭・福栄の7つの地域により構成され、多様な地形と県の一割にあたり、東京23区の面積より大きい698.79km<sup>2</sup>という広大な面積を有している。

本市の人口は、昭和30年のピーク時は約10万人であったが、それ以降は減少傾向をたどり、平成22年の国勢調査では53,747人である。昭和50年代には一時的に減少が穏やかになったものの、依然として減少傾向が続いており、総人口の35.2%が高齢者（平成22年国勢調査）となっている。

#### ◎人口の推移

人口	S50	S60	H2	H7	H12	H17	H22
総数	75,302	72,748	68,999	65,293	61,745	57,990	53,747
0～14歳	16,450	14,410	11,918	9,598	7,947	6,735	5,737
15～64歳	48,939	46,410	43,657	40,153	36,535	32,948	29,088
65歳以上	9,906	11,928	13,410	15,542	17,263	18,307	18,922

（資料：国勢調査）



かつて、萩藩士村田清風は、萩の若人に「四埤の論」を乗り越えるよう説いたと言われている。これは、「三方を山に囲まれた中で、井の中の蛙となるな、四つの埤を越えて、広く師を外へ求めて学べ。」という教えであり、このため、多くの若者が萩で学び、外へ出て行くことを繰り返してきた。現在もこのような状況が続いており、平成24年3月における本市の新規高校卒業者は、449人でうち本市に就職した者63人(14.0%)という状況である。

このようななか、ハローワーク萩管内の主な産業は、日本海の海洋資源を生かした漁業、水産加工業、中国山地の肥沃な土の恵みを利用した農業、萩焼を中心とした窯業及び観光関連のサービス業である。有効求人倍率は緩やかな改善傾向にあるものの、製造業は集積度が低く、第3次産業は中小零細企業がその大半を占めるなど、恒常的に雇用機会が不足傾向にあり、昭和50年から平成22年までの35年間の人口減少率が約29%となっているなか、今後どのようにして人口減少に歯止めをかけるか、また、これら雇用環境の改善に向けた雇用機会の創出が喫緊の課題となっている。

本計画において、様々な萩の農林水産品を可能な限り活用し、萩にしかない、萩でしか味わえない商品等の開発を行い、各種団体等と連携して、萩の「食」のブランド化を推進することが不可欠である。さらに、萩の優れた「食」情報を全国に発信するとともに、萩を訪れる240万人の観光客へのおもてなしとして、萩でしか食べられない地産地消にこだわった「食」や「食の土産品」の開発にも取組み、観光関連産業分野と組み合わせ、総合的、一体的に新たな雇用機会の創出を図り、地域の更なる振興を実現する。

さらに、萩の「食」のブランド化を構築することで、地産他商及び観光客増加に伴う地域経済への波及効果の拡大を図り、雇用の創出を目指す。そのため、本事業を集中して推進することが必要であり、萩の「食」の開発や観光誘客の促進等を一体的に推進していくことを最重要課題と位置づけ、これら一連の取組みを萩の木になるモノづくり「食」実践プロジェクト事業として、展開し、推進するものとする。

具体的には、実践型地域雇用創造事業を活用する事業の実施により、平成24年度から平成26年度までに132名の雇用創出を目標とする。

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

様々な萩の農林水産品を可能な限り活用し、萩にしかない、萩でしか味わえない商品等の開発を行い、各種団体等と連携して、萩の「食」のブランド化を推進する。さらに、萩の優れた「食」情報を全国に発信するとともに、観光客へのおもてなしとして、萩でしか食べられない地産地消にこだわった「食」や「食の土産品」の開発にも取り組み、観光関連産業分野と組み合わせ、総合的、一体的に新たな雇用機会の創出を図り、地域の更なる振興に努める。

### 5-2 法第5章の特別措置を適用して行う事業 該当なし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

#### B0906 実践型地域雇用創造事業

##### (1) 実施主体

萩の木になるモノづくり協議会

##### (2) 構成団体

萩市、萩商工会議所、萩阿武商工会、萩・阿西商工会、萩市観光協会、萩温泉旅館協同組合、山口はぎ漁業協同組合はぎ統括支店、ふるさと萩食品協同組合、JAあぶらんど萩、(社)萩物産協会、阿武萩森林組合

##### (3) 実施を希望する期間

平成24年7月1日から平成27年3月31日まで

##### (4) 行おうとする主な事業

###### ① 雇用拡大メニュー（事業主対象）

###### ア 萩の「食」をつくる萩産品セミナー

事業主を対象に本市が誇る農林水産品の概要、新商品・観光土産商品づくりのノウハウを習得するセミナーを開催することにより、新たな市場開拓を図る。

###### ○萩産品と食セミナー

平成24&25&26年度：3時間/1回/年

###### ○萩産品活用セミナー

平成24&25&26年度：3時間/1回/年

###### ○萩産品活用企業視察研修

平成24&25&26年度：3時間/1回/年

###### イ 萩の「食」をいかすモノづくりセミナー

事業主を対象に本市が誇る萩焼の活用策を提案するセミナーを開催することにより、新商品の開発を促す。

○萩焼活用術セミナー

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

○萩焼商品開発セミナー

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

○萩焼活用策検討会

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

ウ 萩の「食」によるおもてなしセミナー

事業主を対象に地産地消の先進事例、観光動向、観光客ニーズを学ぶセミナーを開催することにより、おもてなしの充実を促す。

○地産地消推進セミナー

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

○観光動向&観光客ニーズセミナー

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

○先進地事例活用セミナー

平成 24&25&26 年度：3 時間/1 回/年

エ 雇用創出実践メニュー活用セミナー

事業主を対象に雇用創出実践メニューで、開発した商品、料理、スイーツの試食会、活用検討会を開催し、販路拡大、利用拡大を図る。

平成 24&25&26 年度：3 時間/2 回/年

② 人材育成メニュー（地域求職者を対象）

ア 萩の観光レベルアップセミナー

観光客の満足度を高める接客技術等を備えた人材を育成し、観光関係企業への就職を促す。

平成 24&25&26 年度：2 時間/12 回/年

イ 萩の観光&食情報セミナー

萩の観光資源の魅力をプレゼンできる人材を育成し、観光関係企業への就職を促す。

平成 24&25&26 年度：3 時間/5 回/年

ウ パソコンスキルアップセミナー

就業において必要とされるパソコンスキルを研修し、地域に必要とされる人材の育成を図る。

平成 24&25&26 年度：3 時間/12 回/年

③ 就職促進メニュー（地域求職者を対象）

ア ふるさと就職推進事業

若年者の地域外への流出に歯止めをかける、また、大学等の卒業後に地元に戻らせるため、雇用の拡大が期待される分野の魅力ある企業を紹介する企業就職相談会を実施する。さらに、これまで以上の情報提供に努める。

○HPによる情報提供 平成 24&25&26 年度 通年

○観光関係企業就職相談会

平成 24&25&26 年度：4 時間/2 回/年

○モノづくり企業就職相談会

平成 24&25&26 年度：4 時間/2 回/年

④ 雇用創出実践メニュー

ア 萩の木になるモノづくり「食」実践プロジェクト

萩にしかない、萩でしか味わえない「食」の産品や商品の開発を行い、萩の「食」のブランド化を確立するとともに、「食」情報を全国に発信し、観光関連産業と組み合わせた新たな雇用機会の創出を図る。

①萩の伝統野菜復活プロジェクト

萩ごぼう、萩ころげ蕪、大島そば、あざみな、かきちしゃ、萩にんにく、萩わけぎ、畑わさび、徳佐うり、白おくら、こんにゃく、田屋なすの現在は流通していない伝統野菜12種を復活させ、萩でしか味わえない新たな食材づくりに取り組む。

なお、生産された伝統野菜は、本協議会構成員の萩市観光協会、萩温泉旅館協同組合の宿泊施設、飲食店に提供し、食材としての価格、利用価値等をアンケート調査等により、検証するとともに、萩にしかない漬物等の加工品の開発にも取り組む。

②萩の産品加工品開発プロジェクト

むつみ千石台の大根、むつみ高俣の桃太郎トマト、旭のジャンボにんにく、大島のプロッコリー等、萩が誇る農産物を素材にした萩にしかない加工品の開発に取り組む。

③萩の料理・スイーツ開発プロジェクト

萩産の農産物、畜産物、水産物が素材の地産地消料理の開発と夏みかん、相島すいか、小川もも等の果樹を素材にした萩にしかないスイーツの開発に取り組む。

④萩の食発信プロジェクト

萩の食のブランド化定着に向け、情報発信と観光関係事業者への周知を徹底し、萩でしか食べられないもの、萩で食べてこそ価値のあるものを提供する観光地づくりに取り組む。

地域再生法による特別の措置を活用するほか、当該措置と下記事業の連携のもと、総合的かつ一体的に行う。

(1) 萩の地魚もったいないプロジェクト

a 内容

低利用かつ未利用となっている魚種を活用した新商品開発を行い、新しいカテゴリー（オイル漬けや地魚の串及び生ハム）としての商品を開発。また、素材となる原魚の特性検証・加工品群の開発プランニング・加工品群のマーケット検証・加工品群の生産・試作品の評価（飲食店料理長へ試食評価を依頼）・販路開拓・広告宣伝の実施

b 実施主体 ふるさと萩食品協同組合

(2) 小規模事業者新事業全国展開支援事業

a 内容

地域の小規模事業者による全国規模の市場に向けた事業展開を促進するために、商工会議所等が事業者と協力して特産品開発や観光資源開発、販路開拓等を行う。

b 実施主体 萩商工会議所

(3) 萩の魚ブランド化推進事業

a 内容

本市の水産物に付加価値をつけ、価格向上等を図り、ブランド化を推進する。水産物については、萩の魚ブランド化推進協議会を主体に、萩の魚のブランド化を推進する。併せて、関係団体による各種イベントの開催やブランド魚である瀬付きあじ、あまだい、けんさきいか、真ふぐのポスター、幟等を作成・配布し、PRする。

b 実施主体 萩の魚ブランド化推進協議会

(4) 起業化支援事業

a 内容

市内での起業を促し、産業の振興、雇用の促進を図るため、独創性及び発展性をもって起業する方に事業所開設等に必要な資金を（上限50万円）補助する。

b 実施主体 萩市

(5) 維新胎動の地「萩」演出事業

a 内容

萩市を訪れる観光客に対して、維新の志士などに扮して公開文化財施設内等での観光案内や藩政時代の町並みが残る観光地での写真撮影などに応じるスタッフを雇用し、明治維新胎動の地「萩」を演出する。

b 実施主体 萩市観光協会

(6) ふるさと萩回帰応援事業

a 内容

農林水産業担い手対策として、新規参入就農者対策や住宅対策を実施しているが、

他地域からの受け入れには数的な限界もあることから、新規参入対策に併せ、市内に相続権をもつ農地や山林、漁船等を有する転出者や新規学卒者を農林水産業後継者として受け入れることが、農山漁村の持続的発展の観点から有益であることから、Uターン等により後継者として意欲を有する若者を官民一体となって緊急的に支援を行う。

b 実施主体 萩市

(7) 定住総合相談窓口開設事業

a 内容

城下町でゆっくりと暮らしたい、自然に囲まれて心豊かに暮らしたい等、「萩暮らしを希望される方を応援するため、定住総合相談窓口を設置し、定住支援ホームページ「来てみいね、住んでみいね！萩ふるさとターン応援団」を開設するとともに、「空き家情報バンク」を新たに設置し、住まいを中心とした生活情報を提供する。

b 実施主体 萩市

6 計画期間

地域再生計画認定日～平成27年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

実践型地域雇用創造事業各事業に参加した求職者等へのアンケート調査により、状況を把握する。さらに、ハローワークと連携し、継続して状況把握に努める。また、定期的に就職した者のフォローも行う。